

第五十九回関西俳句大会 当日句成績

日時 令和六年五月二十五日

会場 中央電気倶楽部ホール

浅井 陽子選

特選

晴天の風は若葉を笑はせる

森下まゆみ

入選

井水汲むこともうれしく水を打つ

西村 節子

川音も設へのうち夏座敷

坂元 軒二

旅発ちの白靴揃ふ三和土かな

村井津哉子

ごはごはに乾くジーンズ夏来る

石橋 康徳

あところは笑うてばかり麦こがし

七種 萩子

竹垣の青く五月のかぐはしき

有村真由美

兄弟の競ひてこぼすしやぼん玉

堀 康恵

放ちてはまた我が胸に黄金虫

桑原 里美

鎖場の雲の峰へと修験道

石井 洋子

蓮池のゆるる一花へ眼を移す

田中 美幸

箱庭にグリコのおまけ置いてみる

清水寿恵子

天空に近きふるさと余花白し

鈴木 玲子

夏空や自転車ぐんと立つて漕ぐ

宮崎こうや

常よりも高き槌音五月晴

中田 無麓

朝妻 力選

特選

枝移るたびに涼しき鳥のこゑ

植松 秀子

入選

井水汲むこともうれしく水を打つ

西村 節子

遠足の子らの指紋の残る窓

田島 かよ

南天の花散らしつつ検針す

森賀 まり

ごはごはに乾くジーンズ夏来る

石橋 康徳

あやとりのはしご四段こどもの日

滝本 香世

小面の紅きくちびる夜の新樹

長野 順子

薔薇咲くや半寿の友の集まりぬ  
藍のある暮しはじまる薄暑かな  
違へたる道引き返す薄暑かな

山本 敏子  
藤川 喜子  
西宮 舞

染め立てのシャツ干す藍屋新樹光

梅枝あゆみ

白南風に背を押されて口熊野

磯 勢子

フレンチのディーナー夏炉に楯足され

高松早基子

静けさやごとりと鳴れる冷蔵庫

富安トシ子

レトロなる電気倶楽部や街薄暑

越智 巖

### 桑島 啓司選

#### 特選

甘茶仏甘茶の海に佇ちたまふ

川上なみ子

#### 入選

よく回る棚田の水車あやめ草

宮谷ふさ子

はんざきの一歩うごけば山動く

藤野 智弘

蜥蜴の子少し歩みて振り返る

政元 京治

あところは笑うてばかり麦こがし

七種 萩子

あやとりのはしご四段こどもの日

滝本 香世

風鈴やフェイスブックに友残り

大島 幸男

信号を待つ間も麦茶飲みにけり

荻野 隆子

だんまりの場に声掛かり夏芝居

安里 道子

鶯や本堂までの二百段

中村真由子

放ちてはまた我が胸に黄金虫

桑原 里美

ビル街をくるくるまはす日傘かな

春名あけみ

雛罌粟のその自惚れの緋が盛り

岩井 英雅

夕焼や遊び足りない子がひとり

小寺 篤子

茅花流し淀の川は平らなり

小林真千子

### 才野 洋選

#### 特選

遠足の子らの指紋の残る窓

田島 かよ

#### 入選

南天の花散らしつつ検針す

森賀 まり

ごはごはに乾くジーンズ夏来る

石橋 康徳

叡山を袈裟がけにして夏燕

平 万紀子

信号を待つ間も麦茶飲みにけり  
兄弟の競ひてこはすしやぼん玉  
だんまりの場に声掛かり夏芝居  
藍のある暮しはじまる薄暑かな  
裸婦像の腕に絡まる蜘蛛の糸  
麦秋や書架にフェルメールの画集  
卯の花に添うて枕木歩きけり  
地図通り歩いて来たる街薄暑  
染め立てのシャツ干す藍屋新樹光  
拭きなほす眼鏡にひかる夏の潮  
枝移るたびに涼しき鳥のこゑ

森田 純一郎選

特選

熊野灘駆けて大漁鰹船

入選

反射するファッション雑誌夏来る  
川音も設へのうち夏座敷  
旅発ちの白靴揃ふ三和土かな  
ごはごはに乾くジーンズ夏来る  
触らせて呉れず首振る袋角  
飛魚の翔びて八丈島近し  
裸婦像の腕に絡まる蜘蛛の糸  
ビル街をくるくるまはす日傘かな  
箱庭にグリコのおまけ置いてみる  
天空に近きふるさと余花白し  
早暁の荒き潮騒鑑真忌  
常よりも高き槌音五月晴  
この閻魔やゝ前のめりにておはす  
カエサルの腕のごとく雲の峰

山尾 玉藻選

特選

だんまりの場に声掛かり夏芝居

入選

荻野 隆子  
堀 康恵  
安里 道子  
藤川 喜子  
山近由美子  
榎崎美和子  
松村 晋  
小寺 昌平  
梅枝あゆみ  
山田美恵子  
植松 秀子

川上 純一

山根 真矢  
坂元 軒二  
村井津哉子  
石橋 康徳  
岡田 有且  
藤堂くにを  
山近由美子  
春名あけみ  
清水寿恵子  
鈴木 玲子  
松本ゆきこ  
中村 無麓  
村手 圭子  
涼野 海音

安里 道子

井水汲むこともうれしく水を打つ

西村 節子

門灯に惑ひ会ふ吾と蟻

摺木 逸子

身ひとつとなりて大空柳絮とぶ

岡島 千秋

遠足の子らの指紋の残る窓

田島 かよ

旅発ちの白靴揃ふ三和土かな

村井津哉子

蜥蜴の子少し歩みて振り返る

政元 京治

あところは笑うてばかり麦こがし

七種 萩子

叡山を袈裟がけにして夏燕

平 万紀子

だんまりの場に声掛かり夏芝居

安里 道子

放ちてはまた我が胸に黄金虫

桑原 里美

藍のある暮しはじまる薄暑かな

藤川 喜子

うしろから風に押されし巢立かな

堀 真一路

そばかすを浮かべ実梅の太りけり

平田 冬か

早暁の荒き潮騒鑑真忌

松本ゆきこ

フレンチのディナー夏炉に櫓足され

高松早基子